



## 「協働的な学び」を通して、自分の「考えの形成」 を目指した授業実践

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-03-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中尾, 雅宏 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.32150/0002000435">https://doi.org/10.32150/0002000435</a>

## 「協働的な学び」を通して、自分の「考えの形成」を目指した授業実践

中尾 雅 宏

### 一 はじめに

令和三年三月に文部科学省初等中等教育局教育課程課から出された「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」には「学校教育の情報化」について次のように示されている。

人工知能 (AI)、ビッグデータ、Internet of Things (IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society 5.0 時代が到来しつつあります。さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、例えばテレワーク、遠隔診療のように、世の中全体のデジタル化、オンライン化を大きく促進しています。(五頁)

学校教育の情報化に関しては、令和元年度から「GIGAスクール構想」の実現に向けて、児童生徒一人一台端末環境での学習が開始された。こうした社会を取り巻く環境の変化は、未来の予測・解決困難性、不安定性などを確実に高めている。

また、社会の変化に伴い、児童生徒を取り巻く言語環境も劇的に変化している。SNSの爆発的な普及をはじめ、各種アプリのコメント欄への書き込みやショート動画・縦型動画<sup>(注1)</sup>への投稿が活発化するなど、様々な媒体を通して「言葉」や「情報」に触れる機会が多様化している。

これまで、花坂・熊本・中尾(二〇一八)、中尾・花坂(二〇二〇)、中尾(二〇二二、二〇二三)では、「自己」や「考えの形成」、「他者性」、「情報通信技術の発達」、「情報通信機器の普及」、「学習者を取り巻く言語環境の変化」をキーワードに「書くこと」の指導における認識や表現の機能について考察してきた。また、中尾(二〇一九)の論考を通して見出した「今後の展望」として、次のようにまとめている。

自分の考えを形成するためには、学習者一人ひとりに「自己」と向き合う時間を確保する必要がある。そのため、学校生活を通じて、そうした機会を様々な場面で何度も設定し、その充実を図らなければならない。(中略) 現段階で注目しているのは

「書くこと」の領域である。「書く」という行為には、自己認識と自己表現、自己内省の機能がある。これまでの考察を踏まえて、「書くこと」の授業を具体化し、実践を通して検討していきたい。(二一九頁)

本稿に示す授業実践は、こうした問題意識を引き継ぎ、構想・実践したものである。また、令和四年度に実施された「第二十六回長崎県中学校国語教育研究大会」においても発表・公開したものである。

## 二 中学校国語科における授業実践

### 二・一 単元における言語活動とその目標

本稿では、中学校第三学年の国語科「書くこと」の授業実践で見出された、生徒の姿や単元の成果と課題をまとめていく。扱った教材は、鷲田清一「誰かの代わりに」(光村図書『国語3』)である。

本単元では、「未来の自分たちへ向けた『贈る言葉』を考えよう」「誰かの代わりに」の学びを通して」という単元名のもと、「一人一台端末を活用し、他者との協働を通じて、引用資料の的確さを吟味したり、目的や意図に応じた表現になっているかを確かめたりしながら、四百字程度の文章にまとめる」という言語活動を設定した。

単元の目標(本単元で育成を目指す国語の能力)については、下記の通りである。

- (1) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔知識・技能〕(1イ)
- (2) 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している。〔思考・判断・表現〕(B(1)ウ)(重点指導事項)
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合っている。〔主体的に学習に取り組む態度〕

### 二・二 生徒の実態

授業を行った学級は、男子十六名、女子十六名の計三十二名(特別支援学級の生徒二名を含む)という構成である。対象となる生徒は、これまで「書くこと」の単元を通して、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にしながら「主張文」を書いたり(二〇二二年六月)、二つの論説文を読み比べ、多様な読み手を納得させるような論理展開の文章をまとめた活動(二〇二二年九月)を行っていた。さらに、定期的な作文課題を通じて、「現時点での将来の夢」や「本当の優しさとはなにか」、「死ぬことは怖いか」などの題材で、「自分の考え」を形成させてきた。

また、進路選択や高校受験を控え、社会に目が向くと同時に、卒業後の自分という存在についても深く考えるようになっていく。

さらに、令和四年五月に実施した「令和四年度全国学力・学習状況調査」の結果から、文章中から必要な情報を引用し、自分の考えを書く問題に課題があることが分かっている。解答の状況から、引用する部分をかぎかつこ(「」)でくくっていない、もしくは、引用箇所をそのまま抜き出すことができていない生徒が約四割いることが明らかになった。このことから、適切な引用の仕方の理解に課題があると考えられる。

## 二・三 単元構想(全八時間)

### 【第一時(導入)】

- ・単元の目標と計画を把握し、見通しを立てる。
- ・新出漢字が難解語句などを確認しながら、語彙力を身に付ける。
- ・本教材(鷺田清一「誰かの代わりに」)を読み、「共感・納得した部分」や「反対・疑問が残る部分」を色分けする。

### 【第二時・第三時】

- ・板書をもとに、内容をまとめながら、文章構造を理解・把握する。
- ・本文中の「問い」に対する、自分なりの「答え(解釈)」を一文一答方式でまとめらる。

### 【第四時】

- ・ワークシート(マッピングシート)を用いて、未来の自分たちへ

向けて「贈る言葉」の構想・構成を考える。

### 【第五時(重点指導事項)】

- ・自分を奮い立たせてくれる言葉など「贈る言葉」に引用する部分を決める。
- ・一人一台端末のスライドソフトを使い、その中のコメント機能を用いて、選んだ言葉が効果的か、また、適切かを吟味する。コメントの方法を段階に分ける。

### 【第六時・第七時】

- ・四百字程度で原稿用紙に「自分の考え」をまとめていく。「自己内対話」を促す。
- ・引用している箇所が「自分の考え(贈る言葉)」として適切かを確認する。

### 【第八時(終末)】

- ・これまでの授業を振り返り、学んできたことを整理し、まとめる。
- ・「自己評価シート」への記入を通して、単元の振り返りを行う。

## 三 コメント機能を用いた生徒同士のやりとりの一例

(二)では、第五時に行ったコメント機能を用いた生徒同士のやりとりを紹介する。

## コメントの方法 (レベル分け)

- ◆ レベル1 : 星(★)の数で表現する
- ◆ レベル2 : 質・内容 or 量・方法
- ◆ レベル3 : 質・内容 + 量・方法  
(助言・批評・提案...etc)

(図1) 生徒提示用コメントのレベル表



(図2) 実際の引用スライドとコメントのやりとり

第五時は、「未来の自分へ『贈る言葉』を書くために、表現の仕方を考えたり、資料を適切に引用したりする力を身に付ける」という目標を掲げた。自分で書籍を選び、自分を奮い立たせる言葉を理由と共にスライドにまとめさせ、周りの生徒がコメントをするという一時間を設定した。コメント機能を活用し、選んだ引用の「質・内容・分量・方法」などに注目させた上で、「引用の効果」についてのコメントを合した。 「引用の効果」については、「その人の考えがわかりやすく表現されているか(びったりか)」、「相手の心に(どのように)響くか」という二つの観点で考えさせている。また、コメントをする際の目安としてコメントの方法を提示した(図1)。

(図2) には、生徒が実際にやりとりを行ったスライドとコメントを示している。本生徒は、「自分が伝えたいメッセージや思い」の欄に、「部活や勉強で、難しいことがあってもやめなければ終わりにやないから諦めずに頑張れ〜」というメッセージを入力している。引用文の欄には「人間は負けたら終わりなのではない。辞めたら終わりなのではない。」という元アメリカ大統領のリチャード・M・ニクソンの言葉を選んでいった。選んで終わりではなく、これに対して、スライドのコメント機能を活用し、クラスメイトからメッセージのやりとりを行った。

このコメント機能の活用は、引用方法が適切に行われているかや引用内容が「贈りたい言葉」の状況にふさわしいかをお互いに吟味するためのものであり、コメントは「レベル1」〜「レベル3」まで分けて提示している。

「レベル1」のコメントは、星(★)が5つある状態で「めっちゃいいと思うよ!」や「いい言葉だと思います」のように、星の数で表現したり、一言で伝えたりしていた。

「レベル2」では、「諦めるのは簡単だけど、その気持ちには負けずに努力し続けられたらいいね」のようにメッセージや引用の内容に触れているコメントであった。

「レベル3」では、「引用元もわかりやすく、引用文もきちんと、」でくくつていいと思います! 『負けたら終わり。ではなく諦めたら終わり』確かにこの言葉通りだなくと思います! 諦めなくなる

ことがあっても最後まで諦めずに頑張ればきつと実るよね!!最後まで頑張ろう!」と引用方法にも、言葉の内容にも触れているコメントであった。

このようなやりとりから、「GIGAスクール構想」による「一人一台端末」の環境は、生徒同士が「共有・交流」するためのやりやすさをもたらしたと考える。他者との協働を通じて、自分への「贈る言葉」という目的や意図に応じた表現になっているか確かめるための手立てとして、コメント機能は有効であったと考える。また、普段関わりが薄いと感じていた生徒同士が端末上では意見のやりとりを活発に行っていた。そうしたやりとりの充実や新たな気付きも見出せたと考える。

#### 四 終末部における生徒の感想とそのやりとり（本稿のまとめ）

稿者は、単元の最後には「単元別 自己評価表」を記入させ「単元を振り返って…」の感想や反省、思ったこと・考えたこと、質問や疑問など」を書く時間を確保している。ここでは、授業のねらいに沿った感想を抱いた生徒の振り返りを三点挙げ、本稿のまとめとしていきたい。なお、傍線部は稿者による。

##### 【生徒ア】

この作文の中で、引用文を使うことで、自分の伝えたいメッセージがより明確に、わかりやすくなったと思うから、そこが引用の効果

なのかなと思った。

##### 【生徒イ】

引用することによって自分の事に置きかえて考えやすくなった。また、考えの広がった気がする。コメントするときのポイントが相手は傷付かないか・言葉はあっているのかを考えてコメントすること。

##### 【生徒ウ】

引用をすることで、自分の意見の根拠ができて、意見に深みが出た。また、引用を中心に意見を述べることで、読んでいる人が納得できる内容になったと思う。コメントをするときは、相手のどういう部分共感できたか、問い・疑問を書き込むことが大事だと分かった。原則として、コメントをする時、相手を傷つけていないか、というのが一番大切だと思った。

##### 【生徒エ】

「誰かの代わりに」を読んで、自分って何だろうと思ったりしたけど、人と助け合いながら、これから起こる出来事を持ちこえて見つけていこうと思いました。そして、つまずいたときに未来の自分に「贈る言葉」を思い出せると思います。

まず、【生徒ア】に関しては、単元や本時のねらいであった「引用の効果」について触れた感想を述べている。自分のメッセーじだけではなく、誰かからの言葉も引用することにより「自分のメッセーじがより明確に、わかりやすくなった」という感想を抱いている。

【生徒イ】は、引用することにより「考えのはばの広がり」を実感し、「言葉はあっているのか」と言葉を吟味するようになっていた。

【生徒ウ】は、「自分の意見の根拠」や「意見に深み」、他者からの「納得」などのキーワードを見出すことができていた。

また、【生徒イ】【生徒ウ】両者とも「相手が傷付かないか」を考慮することの重要性に気付くことができた。これは、インターネットへの心無い書き込みや誹謗中傷が問題となる近頃の日本において、非常に重要な気付き、メディアリテラシーなのではないかと考える。

最後に、【生徒エ】に関しては、第三学年の三学期という、間もなく新たな環境に身を置くこととするこの時期の生徒には、「自分って何だろう」と改めて自問自答している様子が読み取れる。「自分の考え」と向き合う時間の確保が重要であることが生徒の感想から感じられた。将来、何かに壁にぶつかった時や何かに躓いた際には自分からの「贈る言葉」や級友・旧友からのコメントに励まされ、奮い立つような姿を期待したい。

今後も「一人一台端末」の活用した授業方法の検討や「書くこと」授業の提案、「協働的な学び」の実現や「自分の考えの形成」に向けた取り組みを継続していきたい。

(注) スマートフォンで視聴されることを前提とした、およそ六十秒以下の短い動画の「TikTok や Instagram リール、YouTube ショートなど」様々なアプリの機能として追加されている。

### 参考文献

- ・中尾雅宏(二〇二二)「自問」を位置つけた考えの形成のための授業考、『国語論集』十九、二二二～二二六頁
  - ・中尾雅宏(二〇二二)「書くこと」の授業に現れた物語る生徒の姿、『国語論集』十八、三四二～三四六頁
  - ・中尾雅宏・花坂歩(二〇二〇)現代を生き抜くための作文指導についての一考察―自らの生活に対峙できる学習者の育成を目指して、『国語論集』十七、八五～九二頁
  - ・中尾雅宏(二〇一九)「書くこと」の指導に不可欠な「自己形成」についての考察、『国語論集』十六、二一九～二三六頁
  - ・花坂歩・熊本大樹・中尾雅宏(二〇一八)学習材開発のための「言語環境」考、『国語の探究』四十三、五～十二頁
  - ・光村図書(二〇二二)『国語3』(令和二年二月二十日検定済教科書)
  - ・文部科学省初等中等教育局教育課程課(二〇二二)「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」
  - ・文部科学省(二〇一八)『中学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 国語編』
- (なかお・まさひろ) 諫早市立真城中学校